

CASBEE広島 2013年版追補版(BEI対応)
 (仮称)イズミ広島物流センター新築工事

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2013年版追補版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bei(v.1.8)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境			0.30					2.9
1 音環境		4.2	0.15					4.2
1.1 騒音		5.0	0.40					
1 室内騒音レベル	室内騒音レベル:31dB	5.0	1.00					
1.2 遮音		4.0	0.40					
1 開口部遮音性能		-	-					
2 界壁遮音性能	界壁遮音性能:Dr=40	4.0	1.00					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		3.0	0.20					
2 温熱環境		2.6	0.35					2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50					
1 室温		3.0	0.38					
3 外皮性能		3.0	0.25					
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38					
2.2 湿度制御		1.0	0.20					
2.3 空調方式		3.0	0.30					
3 光・視環境		2.4	0.25					2.4
3.1 昼光利用		1.8	0.43					
1 昼光率		1.0	0.60					
2 方位別開口								
3 昼光利用設備		3.0	0.40					
3.2 グレア対策								
2 昼光制御								
3.3 照度		3.0	0.21					
3.4 照明制御		3.0	0.36					
4 空気質環境		3.0	0.25					3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50					
1 化学汚染物質		3.0	1.00					
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.33					
2 自然換気性能		3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33					
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		-	-					
2 喫煙の制御		3.0	1.00					
Q2 サービス性能			0.30					3.1
1 機能性		2.3	0.40					2.3
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40					
1 広さ・収納性		1.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33					
3 バリアフリー計画		3.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		1.6	0.30					
1 広さ感・景観		1.0	0.33					
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33					
3 内装計画		1.0	0.33					
1.3 維持管理		3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31					3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐用年数の長い外装材を使用している。	5.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装材を使用している。	5.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管(SGP-VB):B、排水管(VP):B、冷媒管銅管(CUP):C	5.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23					

2.4 信頼性			3.0	0.19		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			4.1	0.29		-	4.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31		-	
1	階高のゆとり	階高は4.8mである。	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.1	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		工場用途の積載荷重は11000N/m ² 。	5.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境 (敷地内)			-	0.40		-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		断熱性能に配慮した計画としている。	4.9	0.01		-	4.9
2 自然エネルギー利用			3.0	0.28		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		高効率な設備機器を使用している。	4.7	0.42		-	4.7
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)		#VALUE!	4.7				
集合住宅の評価							
4 効率的運用			3.0	0.28		-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	主要水栓の過半に節水型器具を使用。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63		-	3.0
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.21		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法により仕上材の分別が容易、再利用可能な部材を使用。	5.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤 (断熱材等)	ノンフロンの断熱フォーム (ポリスチレン) を使用。	5.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率の抑制に配慮した建物計画としている。	3.5	0.33		-	3.5
2 地域環境への配慮			3.5	0.33		-	3.5
2.1 大気汚染防止		建物設備において燃焼機器の採用はない。	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	適正な量の駐車場を確保し、地域の交通負荷抑制に配慮。	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制					-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害に配慮した屋外照明計画とし、広告物照明の設置はない。	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光 (グレア) への対策		3.0	0.30		-	